

がんばれ!! ばいとくん

第62回 コンサートスタッフ

ばいとくんが向かうのは、大阪にあるドーム球場。といっても、野球の観戦ではない。今日ここで行われるコンサートにスタッフとして参加するのだ。

集合場所に着くと、まわりには自分と同じようなスーツ姿の人たちが大勢いた。しかも男ばかりだ。「もしかしてこの職場は男しかない?」ちよっぴりがっかりのばいとくんであった。多少の不満を感じながらも、まずは最初の仕事にとりかかる。開演前の人員整理。入場口でお客様がスムーズに会場に入れるように案内するのだ。入場口に押し寄せるあまりにもたくさんのお客様に圧倒されながらも、頼りになる男たちのおかげで難なく仕事をこなしした。



次の仕事は開演中の座席案内。遅れてきたお客様を座席に案内するのだ。しかし、ドームでのバイトは今日が初めてのばいとくん。座席番号を見てもすぐにはわかるはずもなく「この席どっちだろう…」などと困っていると、

「私が案内します。こちらへどうぞ」

と女性の声が。声のした方を見ると、制服姿の女性スタッフがさっきのお客様を座席の方へ案内していた。戻ってきた女性スタッフに「すみません。今日が初めてで…」と謝ると、

「それじゃあ、座席案内は私がやるから人員整理の方よろしくね」

と優しく答えてくれた。男ばかりの職場だと思っていたばいとくんのやる気はこの一言で一気に高まるのであった。

コンサートも佳境に入ると、遅れてや

ってくるお客様は少なくなり仕事もひと段落。「バイト代もらえて、コンサートも見られるなんていいバイト見つけたなあ。女性も少しはいるし。来週も来ようかな」と余裕まで見せ始めるばいとくんであったが、その余裕はもろくも崩れ去る。

コンサート終了後も仕事は待っていた。出口に押し寄せるお客様の中でもみくちゃんにされながら人員整理をしたり、広い客席をゴミをひとつひとつ拾いながら回っていったりで、朝からの疲労がどっと出てきた。さっきのやる気もどこかへ行ってしまっただけだった。やっと終わったかと思うと、すでに23時。「終電まで10分しかない!」急いで駅まで走り電車に乗り込む。そして、げいげい言いながらふと気付いた。「このバイト、時給で計算すると700円もないような…」(じゃん)



まつたけ風味 茶碗蒸し

すっかり秋も深まってきた今日この頃、やはり少しぐらいは秋を味わってみたいものです。秋の食べ物といえばまつたけですが、少々高く手が出せません。お金はないけど秋を味わってみたい、そんなあなたに贈る「まつたけ風味茶碗蒸し」です。

○材料 (1人分)

まつたけ風味の吸い物 (インスタント) … 1袋
卵 … 1個 水 … 150cc その他好みの具材



① お吸い物を水に溶かし、卵を入れよくかき混ぜる。この時、空気が入らないように注意する。



② お茶碗に好みの具材 (銀杏・かまぼこ・みつば・エビなど) と①を入れ、ラップをする。



③ 普通の鍋に水を底から2cmほどになるよう入れ、キッチンペーパーを底に敷きお茶碗を置いて沸騰させる。

できあがり



④ 沸騰したら弱火にして鍋にふたをして15分程度蒸し上げ、菜箸などを刺して卵の汁が出てこなければ完成。

はみだし
すてーじ

らいふすてーじ読者歴2年、初めてプリペイドカードが当たった。
⇒いいな～、実はまだ当たったことないんですよ。

(工・3 コーモラント)
(当たり前でしょ編)